

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900470
法人名	(有)レインボープラス
事業所名	グループホーム 虹の森
所在地	北宇和郡松野町大字松丸551-1
自己評価作成日	平成28年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた道路沿いに建つ事業所で、敷地内には有料老人ホームと小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。知り合いの方(町内の方)が多く利用されているので、散歩の際等に利用者同士が気軽に行き来したり、交流を深める事が出来ています。利用者が住み慣れた町でその人らしく安心して過ごして頂けるように、地域との連携を取りながら支援に努め、事業所の納涼祭やクリスマス会等の行事には地域のボランティアや保育園の方々の参加で、交流を深めています。運営推進会議には、地域の方々に多く参加していただき、運営に反映しています。利用者と職員が共に笑顔で過ごせる様、日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれ、事業所は近くに温泉や道の駅など癒しを求めて観光客が訪れる。職員は利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごしてほしいと願い、明るく会話を多く持ち接している。見ている職員と利用者とのコミュニケーションが取れているのがわかる。また職員同士の和も保たれ、管理者やケアマネとの信頼関係が築かれている。開設して14年目を迎える事業所は、町や地域から相談を受けるなど頼られる存在になっている。重度化が進む中、介護技術の向上や看取りを考慮しながらサービス向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 (有) レインボープラス

(ユニット名) グループホーム 虹の森

記入者(管理者)

氏名 坂本 久代

評価完了日

平成28年12月19日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「愛と真心と思いやりの心」のもと、目標である「目配り・気配り・心配り」を行い、利用者が安心して過ごせるよう、職員全員で介護支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は利用者に家庭的な雰囲気を感じてほしいと願い、会話を多く持ち毎日を笑って過ごすことで自然に「目配り」「気配り」「心配り」ができています。時折ミーティング時に振り返りを行うなど、職員全員で理念の共有を図り日々のケアに努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所の行事には、地域や保育園の方々にも声かけし参加して頂いたりしている。外気浴や散歩の折には、挨拶を行うよう心掛けていて、声をかけたり、かけて頂いたりしている。</p> <p>(外部評価) 外気浴や散歩時には地域住民と挨拶が交わされている。保育園との交流ができてからは年に2～3回、園児の訪問があり歌や踊りの披露が利用者の楽しみである。納涼祭にはフラダンスのボランティアが来所し踊りの披露があったり、地域の敬老会に背広を着て出席した利用者もいるなど、地域に浸透した事業所となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域ネットワーク会議や運営会議等において、認知症についての理解や支援方法を発信している。納涼祭やクリスマス会等には地域のボランティアの方々に来て頂いたり、チラシを配布し地域の方々への参加を呼びかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 会議には、家族の方・民生委員さん・お巡りさん等、各方面 の方々に参加して頂いている。毎回質問や相談、助言などを 頂き、参加者と意見交換を行い日々のケアの向上に繋げてい る。地域の情報等も教えて頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、家族や区長、民生委員、消防団長、駐在所 所長、町担当職員等の参加により開催している。会議では利 用者の生活状況や事業所の活動報告、ヒヤリハットや事故報 告を行っている。昨年は全国的に自然災害が多く、避難訓練 の内容について話が深まるなど、様々な情報を得ることがで きる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃から、地域包括センターや、町の介護保険係の方から助 言を頂いたり運営推進会議や町主催のネットワーク会議に出 席して情報交換を行い連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 町担当者が運営推進会議に参加し事業所の実情を把握してお り、介護保険の更新等確認事項がある時はその都度連絡を取 るようにしている。地域包括支援センターや居宅介護事業所 から地域で困っている方の相談を受け、入居につながった事 例もあるなど、町との連携は取れている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 全職員が正しい理解が出来る様学習会を行っている。日中は 玄関の施錠はしておらず、利用者が自由に出入り出来ており 見守りを徹底している。日々のケアにおいても工夫をしながら 利用者の安全確保に努めている。</p> <p>(外部評価) 月1回ミーティング時に身体拘束をテーマとして取り上げ、 管理者をはじめ職員全員が理解するよう努めている。転倒防 止のため申し送りを密にするなど、職員の連携を強化するこ とで利用者の安全を確保している。帰宅願望のある利用者には、 職員が寄り添い一緒に外出したり納得してもらえようよう 支援している。言葉の拘束についても職員全員に周知徹底 し、利用者の尊厳を第一にケアに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職場のミーティング等において学習会をしたり、日頃のケアにおいても身体的虐待のみならず、言葉の虐待についてもその都度、注意を払いながら指導も行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人の制度を利用されている利用者の方がおられるので、身近なところで学ぶことが出来ている。また、可能な限り研修会等に参加する機会を持つよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) パンフレット・重要事項説明書を用いて、利用者や家族と十分な説明を行い、納得された上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議において家族の方にも参加して頂き、意見や要望等を聞かせてもらっている。また、プラン作成時・面会時・電話連絡する機会を活用して意見を聞くときがある。	
			(外部評価) 家族の面会時や運営推進会議の際に利用者の現状を報告し、意見や要望を聞くように努めている。遠方の家族には担当職員が便りと共に手紙を添えて郵送し、利用者の暮らし振りを伝え、家族からは感謝の言葉が返ってくるなど、家族とはいい関係が築けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回スタッフ会議を開き、職員の意見や提案を出し合い、より良い事業所運営に反映出来るようにしている。また、会社全体のミーティングでは代表者も出席して運営等についての説明や意見を聞く機会もある。	
			(外部評価) 月1回スタッフ会議を開き、その中で利用者への対応の仕方について話し合ったり、職員全員が利用者のケアに同じ方向性を持って取り組めるよう努めている。職員の発案でそうめん流しや運動会を実施したところ利用者に大変喜ばれるなど、管理者を含め職員全員のチームワークにより行事の成果も上がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や、資格を取れるよう推選したり、それにともない給与水準を上げるなど各自が向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 可能な限り、法人内外の研修を受ける機会を作ったり、推奨している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣には同業者が少ないが、交流できる研修会や、ネットワーク会議等への参加を推奨し、それぞれのサービスの真を向上させていくよう取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの依頼があった時点より、ご本人との面談等を行い、困り事や要望などの把握に努め、不安を取り除き安心出来るような関係作りが出来るよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの依頼があった時点より、必要に応じて面談、訪問を行いながら、本人を中心に家族の困り事や不安、要望などを把握し、関係作りに努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談事をしっかり聞き、状況把握に努めながら「その時」に何が一番必要な支援かを検討し種々のサービスの説明を行い、その方に合った選択が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の立場にたち、負担にならない程度にお手伝いをして頂いている。また、常に感謝する様心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の生活状況等を定期的・随時に家族に報告したり、写真などを送付し利用者本人と家族が疎遠にならないように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 散歩などに出かけ、近所の方と会話したり、それがきっかけになり、近所の方が面会に来られたりしている。また、知り合いの方が利用されている小規模事業所に出かけ会話出来る機会を作っている。 (外部評価) 散歩がてら行きつけの理髪店に行ったり、昔の仕事仲間が立ち寄ってくれたりしている。家族や知人に年賀状を出したり、併設の小規模事業所を利用する知人に会いに行き昔話を楽しんだり、近くの公共施設に出かける利用者もいるなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合った利用者で会話ができる様席の配置を工夫したり、その人に合ったレクが楽しんで出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、町で出会った時などコミュニケーションに努め、相談事等があった時は、ねぎらいの言葉をかけたり、可能なアドバイスを行うなどしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々関わっている中で知り得た情報のもとで、利用者本人の立場に立ち、ミーティング等で職員が共有し検討している。	
			(外部評価) 利用者が事業所の環境に馴染み、自分の思いが言えるよう職員が一致団結して取り組んでいる。昔の歌などで過去を思い出す利用者や、日常の関わりの中でさりげなく出る言葉をしっかり聞くようにし把握した内容は、記録して職員間で共有している。昼食時に隣の席の利用者が「みんなに感謝、感謝」と笑顔で手を合わせる姿が見られ、微笑ましい光景であった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用開始時の情報把握、また関わっていた介護サービス事業所の情報提供を頂きながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご家族からの情報提供や、スタッフ間での情報を密にしながら心身の状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の声や、日頃の心身の状態について、全スタッフで話し合いの場を設けたり、ご本人や家族には電話や面会等に要望を聞く場を作りながら、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、本人と家族の要望を取り入れながら、職員全員で話し合っ介護計画を作成している。介護計画は家族に送付しており、家族の意向の欄に自筆で職員にねぎらいの言葉が書き添えてあるなど、職員の励みにもなっている。また、症状悪化のための薬の調節を計画にも取り入れ定期的なモニタリグを行うなど、よりよい介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や気づきについて、より具体的に記録に残すよう話し合いを持ったり、職員間で変化に対し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者やご家族の状況やニーズに応じ必要な対応を検討し、可能な限り柔軟な対応をするよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 納涼祭やクリスマス会等の事業所の行事に地域の方やボランティアの方々に参加して頂いている。近くで散歩や散髪・買い物等に出掛ける等楽しむ事が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族とも相談し、かかりつけ医の受診支援を行っている。受 診には、管理者が主に同行して情報を伝え連携が密に取れる よう支援している。	
			(外部評価) 利用者のほとんどが協力医をかかりつけ医としている。職員 が付き添って受診しているが、必要があれば往診も可能など 臨機応変に対応している。夜間帯は診療所の看護師に指示を 仰ぐこともできるため心強い。受診結果は速やかに家族に報 告するなど適切な健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々のケアを通じて、状態変化や異常に気付いた時には介護 職員が看護職員と情報交換を行い、医療との連携に繋げている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院には情報の提供や、ケアについて話し合いを行うよう努 めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「重度化した場合における（看取り）指針」を作成してい て、入居時等に利用者や家族に説明をしている。体調が重度 化してきた場合は、家族や主治医を含めての話し合いを行って 事業所ができる事を支援する。	
			(外部評価) 事業所では「重度化した場合における看取り指針」を作成 し、契約時に利用者や家族の要望も踏まえ丁寧に説明してい る。重度化した場合は、段階的に医師が家族に説明した承を 得るほか、職員全員が看取りについて理解し家族の不安を払 拭するよう努めており、つい最近も利用者が家族や職員に見 守られながら、穏やかに最期を迎えられたところである。看 取り後に管理者やケアマネが職員の不安を取り除くなど、ア フターケアにも積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修や勉強会等へ参加し学ぶ事で、実践力を身につけるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署の指導のもと避難訓練を行っている。 (外部評価) 年に2回消防署立ち合いのもと避難訓練を実施している。夜間想定訓練を行っているが、実際に夜間に行いたいと管理者やケアマネ考えている。運営推進会議でも避難訓練の具体的な話も出ており、関心が高い。事業所の裏には崖があり、がけ崩れの懸念がされている。また、実際に緊急連絡網を回したり近隣住民の参加を得ながら災害対策に取り組んでいる。	運営推進会議でも災害対策が話題になるほど関心が高いことから、これからも近隣住民と連携を図り災害対策に取り組んでほしい。事業所の裏ががけ崩れの恐れがあり、実際にも心配の声も上がるなど懸案事項となっているため、行政等に相談をするなど、利用者が安心して暮らせるよう事業所の安全第一を前提に今後も業務に励んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ケアを行う際、可能な限り本人の意思の確認を行い尊重し、排泄や入浴等もマンツーマンを心掛けている。日々のケアの中での声かけや対応についても学習会等で学んでいる。 (外部評価) 職員は事業所は家であり、利用者が笑顔で楽しく過ごしてもらうことを大切に考えており、楽しい会話を心がけている。職員はトイレ誘導等の声かけの配慮や会話も地元の方言などに気をつけるなど、利用者一人ひとりを尊重し支援しており、プライバシーを損ねないよう配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で本人の思いや希望が感じとれるよう表情等にも気を配るよう努めている。言葉かけも本人が意見を述べる聞き方をするよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活パターンを把握し、その人の出来る事を取り入れながら、その人のペースに合わせた暮らしが出来るよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に近所の理髪店へ送迎したり、季節を考慮しながら、その人らしい洋服選びを心掛けている。また、男性利用者の方は、毎朝髭剃りを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片づけが出来る方が少なくなったが、食事前後のテーブル拭きはそれぞれにしてもらっている。職員は利用者の方々と一緒にテーブルを囲み食事をしている。また、喜んでいただけて尚且つ季節を感じる事が出来るようなオヤツ作りを工夫して提供している。	
			(外部評価) 1か月分の献立をまとめて作成し、職員全員が交替で調理を担当し、利用者にも食器拭きなどできることを一緒に手伝ってもらっている。箸や茶碗、コップなど利用者それぞれ使い慣れたものにしていく。正月にはちらし寿司がふるまわれたり、昼食メニューのふろふき大根を「美味しいなー」と笑顔で喜んで頬張る利用者もいた。食事介助に必要な利用者には職員が同じ目線で寄り添い、一人ひとりのペースに合わせて支援しており、食事中も職員と利用者の会話が笑いが絶えることはなく、楽しいひと時を過ごしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量のチェックと必要に応じて水分チェックを行い、一日に必要な量が摂取出来るよう食べやすい形状にするなど工夫している。また、一人ひとりの状態や好みに合わせ、スポーツ飲料・栄養補助飲料・コーヒー等、便秘の方には牛乳を提供したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っている。声かけ・介助が必要な人の状態に合わせた対応をしている。義歯の方は、週一回消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄を基本として、時間的・随時の一人ひとりの排泄を把握したトイレ誘導を心掛けている。全てを介助するのではなく出来る所は声掛けや見守りを行うようにしている。	
			(外部評価) トイレが2箇所あり利用者がトイレを使用しやすいよう配慮している。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、こまめに声かけをして誘導するなど、なるべくトイレで排泄できるよう努めている。トイレに誘導し排泄が終わるまでドア越しに待ち、利用者を焦らさないよう自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に対する知識が得られるよう勉強会を行い、便秘予防には果物や牛乳（水分補給）等を提供している。トイレ誘導時には腹部マッサージを行い、散歩に出掛けたりと自然に排便が出来るよう努めている。毎日、排便チェックを行い、場合によっては下剤で調節している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週三回の入浴を基本として実地しているが、マンツーマン対応でゆっくり入浴してもらうよう心がけている。入浴を嫌う方には声掛けやタイミングを工夫して、冬至にはゆず湯などにも入ってもらうようにしている。	
			(外部評価) 週3回入浴できるようになっており、浴槽への移動が困難な利用者は福祉用具を適切に活用し、安全に入浴できるよう配慮している。風呂が苦手な利用者には、声かけのタイミングをずらしたり、ゆず湯にするなど工夫し無理強いせず入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はレクリエーションに参加してもらい、天気の良い日には外気浴や散歩も行い、昼夜逆転しないよう努めているが、利用者の状態により休養する時間も設けている。就寝前には室内の温度調節やトイレ誘導を行い、ゆっくり休んでいただけるように環境調整も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服用する薬の内容を把握して、飲み忘れ誤薬を防ぐため服薬時には名前・日付・朝・昼・夕と声に出して確認に努めている。 日常の記録を医療関係者に詳しく提供する事で治療や服薬調整に活かしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合ったお手伝いで台拭き、洗濯たたみに洗濯干し等のレクリエーションの参加で役割作りを行っている。季節物の食物を提供して季節を感じて頂き、自分らしく自由に暮らせるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近隣の理髪店に散歩がてら散髪に出掛けている。一人ひとりに声かけをして、日光浴、散歩を支援、その際に地域の方の声かけがあり交流出来る時もある。帰宅願望のある方には、戸外に出て、付き添い共に時間を過ごす事に努めている。 (外部評価) 天気のいい日は、外気浴や事業所周辺に散歩に出かけ地元の人たちと挨拶を交わすなど、利用者が外出できる機会を増やしている。敷地内のデイサービスのレクリエーションに参加することもあり、利用者の楽しみの一つになっている。また、時には近くの集会所を借りお弁当を持って出かけ、みんなで団らんするなど、気分転換にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持の可能な方には、少ない額でも自身のバッグに入れておくことと安心されるので、所持して頂いている時もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 現在、手紙を書いたり自ら電話したりする事が出来る方は居ないが、家族から電話がかかってきた時は通話出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節事の花を飾ったり、利用者の作品を飾ったり、室内の温度は常に快適であるよう気を付け、トイレの紙等物品が不足している場合に不安になる利用者が居るので常に物品管理に努めている。また、常に清潔に掃除が行き届き不快な思いをしないようにしている。</p> <p>(外部評価) リビングの窓からは明るい日差しが差し込み、高台にある事業所からは山の緑を眺めることができる。壁には正月用に利用者と一緒に作ったちぎり絵や行事毎の写真が貼ってあり、楽しそうな雰囲気が感じ取れる。利用者は食後、ソファでくつろいだり、洗面台で歯磨きをするなど、それぞれ思い思いの場所で過ごしている。利用者の体調を気づかい乾燥防止のために加湿器を置いたり、清掃をこまめにし清潔感のある居心地のよい空間づくりに努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファで気の合う者同士が会話したり、のんびりテレビを観て過ごされたり自席で独りが塗り絵に集中する空間作りを工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使用していた馴染みの家具や布団、安心出来る物を持参して頂いている。また、レクでご自分が作った作品等を自由に飾ったりしてもらい、その人らしく過ごしてもらえる空間づくりを行っている。</p> <p>(外部評価) エアコンとベッドが備えられ、タンスや鏡、時計など利用者の使い慣れたものも持ち込まれ、居心地よい居室となっている。家族の写真や自分の作った作品を飾るほか、部屋の配置を思うようにするなど、利用者お気に入りの落ち着いて過ごせる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 部屋、トイレの場所には目印や表示をする事で混乱をさけ分かりやすくする。立位や歩行の支援が出来るように障害物を置かないよう安全にかつ自立に向けての工夫、支援している。</p>	